

## 佐賀県のウイルス性肝炎 への取組み



佐賀県は  
**肝がん**  
12年連続で  
死亡率  
全国ワースト1位

### 肝がん死亡率1位からの 脱却に向けて

#### 【佐賀県の現状】

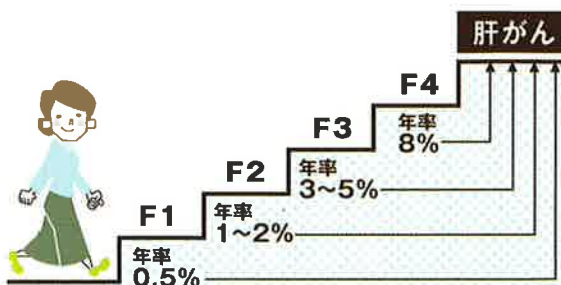
佐賀県には、不名誉な「全国1位」があります。それは、肝がんの死亡率です。人口10万人あたりの死者数をあらわす死亡率は、全国のは25.9ですが、佐賀県はそれを大幅に上回る41.1となっています。この状況は昔から続いており、平成11年以来12年連続での全国ワースト1位となります。

#### 【原因は？】

肝がんの原因は、9割が、肝炎ウイルスによるものと言われています。実際、佐賀県のC型肝炎の感染率は、全国平均の倍以上です。肝炎ウイルスによる慢性肝炎は、そのまま放っておくと、肝硬変や肝がんになってしまうこともある、こわい病気です。逆にいえば、ウイルス性肝炎の治療をすることが、肝がんを防止するもっとも効果的な方法です。

#### ●線維化進展と発がん率●

(1段昇るのに、約10年かかる)



#### 【検査方法は？】

肝炎の対策は、まず、血液検査をして、肝炎ウイルスが体の中に入っているかどうかを確認します。もし、血液検査をして陽性だった場合、ウイルスの遺伝子を調べる検査やエコーなどの精密検査をします。それで慢性肝炎と診断されたときに、インターフェロン(治療薬)などの治療を行います。ウイルス検査からインターフェロン治療までスムーズに進めることが、肝炎対策の鍵です。(裏面につづく)

## 【佐賀県の取り組みと助成】

佐賀県は、全国的にみても、肝炎対策が充実した県と言われています。昭和63年には、全国に先駆けて国のモデル地区肝疾患検診が実施され、平成4年からは全県的に市町村の基本健康診査にあわせて、肝炎ウイルス検査が全国で初めて導入されました。また、より多くの方が肝炎ウイルス検査を受けることができるよう、職場で受けられる職域出前検診や医療機関で受けられる検査、保健所での検査（いずれも無料）を実施しています。

インターフェロン治療が必要な方には、治療費助成制度も用意しています。インターフェロンはとても高価で、本来なら月に8万円〜15万の治療費がかかりますが、助成制度を使えば、自己負担額が1月あたり1万円または2万円まで治療を受けることができます。

これでも多くの方にインターフェロン治療を受けてもらえなければいけません。現実にはなかなかそうはいきません。佐賀県では治療費助成の目標を年間6000〜10000件としていますが、現時点では目標の7割程度にとどまっています。特に平成23年度に

なつてから治療費助成の件数が伸び悩んでいます。

そこで、今年1月に、佐賀大学医学部と佐賀県が協力して肝疾患センターを立ち上げました。肝疾患センターでは、肝炎ウイルス検査をより多くの方に受けてもらい、治療が必要な人にインターフェロン治療を促します。また、肝臓の専門病院やかかりつけ医のより強い協力体制をつくり、肝炎の患者さんが地域のかかりつけ医にかかりながら、定期的に専門医療機関の専門治療も受けられるようにします。そして、肝炎ウイルス検査の結果やインターフェロン治療の効果を分析・研究して、よりよい肝炎対策を考え進めていきます。

このように、佐賀県では先進的な肝炎対策を進めています。もし、まだ肝炎ウイルス検査を受けていない方や、検査を受けていて、肝炎ウイルスに感染していないかどうかを確かめてください。そして、仮に感染している治療が必要なら、インターフェロン治療費助成について、お近くの保健福祉事務所にご相談ください。（協力：佐賀県健康増進課）

## C型肝炎の治療について 専門医に聞いてみました！

回答：佐賀県医師会癌検診会肝癌部会 部会長 平井賢治先生

### ① C型肝炎を 放置すると どうなるの ですか？

C型肝炎は、症状がでてきた時は、すでに慢性肝炎などの状態であることがほとんどです。また、いったん感染すると、慢性化する割合が非常に高く、急性C型肝炎にかかると、約70%の人は慢性肝炎になります。慢性肝炎の約30%の人が肝硬変になり、放置すると、肝硬変の人は、10年間で約80%の人が肝臓になると言われています。また、約30年間で急性肝炎から肝臓になると言われています。



### ② C型肝炎のインターフェロン治療とは？



C型肝炎の根本的な治療は、ウイルスを消滅させるインターフェロン治療しかありません。インターフェロン治療は、ペグインターフェロン（1週間に1回の注射）とリバビリン（経口剤）の2剤を用いた半年から1年間の治療が、現在の標準治療法です。効果は、ウイルスの型と量で異なってきます。日本人に多いI型で高ウイルス量では約50%に効果が得られ、それ以外の型では約80〜90%の人でウイルスは消滅します。現在、公費助成制度があり、ほとんどの人は1月あたり1万円の自己負担で治療が受けられます。特別な例では、1年半の助成が認められています。また、現在は、慢性肝炎だけでなく、肝硬変に対してもインターフェロン治療が保険で認められるようになりました。C型肝炎と言われている人は、ぜひ一度自分のウイルス量や遺伝子の型を、かかりつけの先生に調べてもらってください。

### ③ インターフェロン以外の治療はありますか？

ウルソ®という内服薬と強力ミノファゲンC®の注射がよく知られています。この治療の目的は、肝機能（GOT、GPT）を落ち着かせることです。肝機能が落ち着いた人からは発癌が少ないことが明らかになっています。そのほか、食事療法も大事ですが、安静にすぎたり、高カロリーのもの食べすぎて肥満になったり、鉄分を取りすぎることはかえって肝臓を悪くします。以前、肝臓の食事や運動治療で常識とされていたことが、現在は非常識とされています。注意してください。

### ● 治療成績 ●

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 従来の単独療法                 | 6%  |
| イントロンA + リバビリン          | 20% |
| ペグインターフェロン単独            | 16% |
| ペグインターフェロン + リバビリン(48週) |     |
| I型 高ウイルス量               | 50% |
| ペグインターフェロン + リバビリン(24週) |     |
| II型                     | 90% |
| I型 低ウイルス量               | 90% |

### ④ 話題の新しい インターフェロン治療 について もっと教えてください！



今までの2剤を用いた治療に、テラプレビルという経口剤を加えた3剤による新しいインターフェロン治療が始まりました。この治療は、半年間で済みます。前の治療での再燃例（一度ウイルスが消え、治療後再び出現した例）で88%に効果があり、ウイルスが一度も消えなかった無効例でも34%でウイルスが消失しています。この新しい治療を行っても効果が得られない人は、C型肝炎の人の20%くらいとなり、日本からC型肝炎の人がいなくなる時代が近づいてきたといっても過言ではありません。ただ、この治療は始まったばかりであり、佐賀県で行っている施設は現在限られています。